



# 日本大学大学院 生産工学研究科



Guide to Graduate School of Industrial Technology, Nihon University





# 技術をより広く、深く学ぶ大学院は、あなたの未来を豊かにする

生産工学研究科で学ぶことは、基礎から最先端まで包括する知識と技術、そして幅広い視野の修得。産業界の第一線で求められるマネジメント能力を兼ね備えた技術者に成長し、より広く高い世界を目指すことができます。

## 日本大学教育憲章

- 日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

## 日本大学マインド

- 日本の特質を理解し伝える力  
日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる。
- 多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力  
異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。
- 社会に貢献する姿勢  
社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

## 大学院生産工学研究科 教育方針

### ディプロマ・ポリシー

■博士前期課程  
生産工学研究科に、所定の期間在籍し、日本大学教育憲章、生産工学研究科の教育目標並びに各専攻の教育研究上の目的に基づいた教育課程により、教育目標に沿った研究指導を受け、所定の単位数を修得するとともに、研究科が開催する発表会を経て提出された修士論文の審査に合格した者に、修士(工学)の学位を与える。  
次の要求事項を満たしていることを、課程修了の目安とする。

- ・生産工学に関わる幅広い知識を身につけ、自らの研究を遂行するために必要な倫理観を高めることができる。
- ・学修を通じて得た知識を国際社会の多様な課題に適用し、自らの研究を論理的に説明することができる。
- ・専門分野を体系的に深く理解し、高度な情報を活用して論理的かつ批判的に評価することができる。
- ・自ら獲得した知識・技能等に基づいて、研究に関する問題を発見し、解決することができる。
- ・高度技術者として、社会の発展に果敢に挑戦することができる。
- ・国内外の多様な社会・環境の中で、他者の価値観を尊重した上で、適切なコミュニケーションを主体的に実践し、自らの考えを伝えることができる。
- ・高度な技術の進歩に適応し、他者と協働することにより、グローバル化する知識基盤社会の発展に寄与することができる。
- ・振り返りを通じて、自己の研究力、技術力を高めることができる。

### ■博士後期課程

生産工学研究科に、所定の期間在籍し、日本大学教育憲章、生産工学研究科の教育目標並びに各専攻の教育研究上の目的に基づいた教育課程により、教育目標に沿った研究指導を受け、所定の単位数を修得するとともに、研究科が開催する発表会を経て提出された博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、博士(工学)の学位を与える。  
次の要求事項を満たしていることを、課程修了の目安とする。

- ・研究及びその成果の公表などを通じて、社会の問題を自らの力で見出し解決し、新たに得た知見を世界に発信することができる。さらに学識を教授するために必要な能力を培うこと。

### 「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

自ら学ぶ	■豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。 ■世界の現状を理解し、説明する力 世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。
自ら考える	■論理的・批判的思考力 得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。 ■問題発見・解決力 事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。
自ら道をひらく	■挑戦力 あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。 ■コミュニケーション力 他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。 ■リーダーシップ・協働力 集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。 ■省察力 謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

### カリキュラム・ポリシー

■博士前期課程  
生産工学研究科は、生産工学研究科のディプロマ・ポリシーに合う以下の人材を養成するため、博士前期課程を通じて、生産工学系科目及び専門科目で構成される体系的なカリキュラムを編成し実施する。また、各科目における教育内容・方法、成績評価方法、及び評価基準をシラバス等で明示し学生に周知した上で、公正かつ厳正に評価を行う。

- ・生産工学系科目を学修することにより、生産工学に関わる幅広い知識を身につけ、特別演習、特別研究を修得することにより、自らの研究を遂行するために必要な倫理観を高めることができる。
- ・各専攻における専門科目の学修を通じて得た知識を国際社会の多様な課題に適用し、自らの研究を論理的に説明することができる。
- ・各専攻における専門科目を体系的に学修することにより、高度な情報を活用して論理的かつ批判的に評価することができる。
- ・生産工学系科目と各専攻における専門科目を学修することにより獲得した知識・技能等に基づいて、研究に関する問題を発見し、解決することができる。
- ・生産工学系科目と各専攻における専門科目を学修することにより、高度技術者として、社会の発展に果敢に挑戦することができる。
- ・特別演習、特別研究を修得することにより、国内外の多様な社会・環境の中で、他者の価値観を尊重した上で、適切なコミュニケーションを主体的に実践し、自らの考えを伝えることができる。
- ・生産工学系科目と各専攻における専門科目を学修することにより、高度な技術の進歩に適応し、他者と協働することにより、グローバル化する知識基盤社会の発展に寄与することができる。
- ・特別演習、特別研究を修得することにより、振り返りを通じて、自己の研究力、技術力を高めることができる。

### ■博士後期課程

生産工学研究科は、生産工学研究科のディプロマ・ポリシーに合う以下の人材を養成するため、博士後期課程を通じて、専門分野での特別研究を実施するリサーチワークを実施する。また、特別研究における研究・教育内容・方法、成績評価方法、及び評価基準をシラバス等で明示し学生に周知した上で、公正かつ厳正に評価を行う。さらに学識を教授するために必要な能力を培う機会を設定やそのようなPLEFDの情報提供に努める。

- ・博士前期課程で修めた学識・識見に加え、該当する専攻のいずれかの特別研究(研究指導科目)を修得することにより、研究及びその成果の公表などを通じて、社会の問題を自らの力で見出し解決し、新たに得た知見を世界に発信することができる。さらに学識を教授するために必要な能力を培うこと。

### アドミッション・ポリシー

#### ■博士前期課程

生産工学研究科では、日本大学教育憲章に則り、自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく能力を有し、社会に貢献できる人材を育成します。  
このため本研究科では、以下に示す「求める学生像」を理解して意欲的に学修・研究を進めていくことのできる者を求めています。

「求める学生像」

- ・科学・工学・生産工学の面からグローバル化する知識基盤社会の発展に貢献し、他者と協働し、研究能力、開発能力を高めたいと考えることができる。
- ・自らが修めたい専門分野において研究を深めるにあたり、必要となる知識を有する。
- ・論理的かつ批判的な思考を通じ、自らの考えを述べるることができる。
- ・深い洞察力と研究能力を高め最先端の研究を遂行するに要する自立的な行動力を有する。
- ・研究を深めるにあたり必要な英語の能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有する。

なお、本研究科に入学を志す者は、「求める学生像」を理解していると判断し、入学試験では、口述試験、面接試験、学力試験等により、博士前期課程の学修に必要な「学力の3要素」を評価します。

#### ■博士後期課程

生産工学研究科では、日本大学教育憲章に則り、自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく能力を有し、社会に貢献できる人材を育成します。  
このため本研究科では、以下に示す「求める学生像」を理解して意欲的に学修・研究を進めていくことのできる者を求めています。

「求める学生像」

- ・生産工学に関わる幅広い知識を身につけ、自らの研究を遂行するために必要な倫理観を高めることができる。
- ・学修を通じて得た知識を国際社会の多様な課題に適用し、自らの研究を論理的に説明することができる。
- ・高度な情報を活用して論理的かつ批判的に評価することができる。
- ・学修を通じて得た知識・技能等に基づいて、研究に関する問題を発見し、解決することができる。
- ・高度技術者として、社会の発展に果敢に挑戦することができる。
- ・国内外の多様な社会・環境の中で、他者の価値観を尊重した上で、適切なコミュニケーションを主体的に実践し、自らの考えを伝えることができる。
- ・高度な技術の進歩に適応し、他者と協働することにより、グローバル化する知識基盤社会の発展に寄与することができる。
- ・振り返りを通じて、自己の研究力、技術力を高めることができる。

なお、本研究科に入学を志す者は、「求める学生像」を理解していると判断し、入学試験では、口述試験、面接試験、学力試験等により、博士後期課程の学修に必要な「学力の3要素」を評価します。

### 学位授与の基準

#### ■博士前期課程

生産工学研究科に、所定の年限在籍し、日本大学教育憲章、生産工学研究科の教育目標並びに各専攻の教育研究上の目的に基づいた教育課程により、教育目標に沿った研究指導を受け、33単位数以上(所定の単位数)を修得するとともに、研究科が開催する発表会を経て提出された修士論文の審査に合格した者に、修士(工学)の学位を授与する。ただし、優れた業績を上げたものについては大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。

次の要求事項を満たしていることを、課程修了の目安とする。

- ・生産工学に関わる幅広い知識を身につけ、特別演習、特別研究を修得することにより、自らの研究を遂行するために必要な倫理観を高めることができる。
- ・学修を通じて得た知識を国際社会の多様な課題に適用し、自らの研究を論理的に説明することができる。
- ・高度な情報を活用して論理的かつ批判的に評価することができる。
- ・自ら獲得した知識・技能等に基づいて、研究に関する問題を発見し、解決することができる。
- ・高度技術者として、社会の発展に果敢に挑戦することができる。
- ・国内外の多様な社会・環境の中で、他者の価値観を尊重した上で、適切なコミュニケーションを主体的に実践し、自らの考えを伝えることができる。
- ・高度な技術の進歩に適応し、他者と協働することにより、グローバル化する知識基盤社会の発展に寄与することができる。
- ・振り返りを通じて、自己の研究力、技術力を高めることができる。

なお、生産工学研究科の学位授与における合否判定審査項目【以下に記載】については、大学院履修要覧に記載して公表するとともに、学位授与の合否判定の基準とする。

生産工学研究科の学位授与における合否判定審査項目

学位審査は、研究活動、学位論文および公開発表会について、以下の項目で行います。

【審査項目】

- 1 生産工学研究に関連する分野について、広く調査した。(論文・作品)
- 2 研究課題に自主的に取り組み、有益な知見を得た。(論文・作品)
- 3 研究成果を的確に説明し、他の研究者と討論できた。(学会発表・公開発表)
- 4 当該研究が社会へ寄与する点と環境に及ぼす影響を考慮した。(学会発表・公開発表)

【合否判定】

研究活動と学位論文を、上記の4つの項目で審査し、総合的に判断して合格か不合格か判定します。

#### ■博士後期課程

生産工学研究科に、所定の年限在籍し、日本大学教育憲章、生産工学研究科の教育目標並びに各専攻の教育研究上の目的に基づいた教育課程により、教育目標に沿った研究指導を受け、30単位数以上(修士課程を修了した者については、その修得単位数を含む)(所定の単位数)を修得するとともに、研究科が開催する発表会を経て提出された博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、博士(工学)の学位を与える。  
ただし、優れた業績を上げたものについては、大学院に3年(修士課程に2年以上在学し、当該過程を修了した者)にあっては、当該過程における2年の在学期間を含む)以上在学すれば足りるものとする。

次の要求事項を満たしていることを、課程修了の目安とする。

- ・研究及びその成果の公表などを通じて、社会の問題を自らの力で見出し解決し、新たに得た知見を世界に発信することができる。さらに学識を教授するために必要な能力を培うこと。

なお、生産工学研究科の学位授与における合否判定審査項目【以下に記載】については、大学院履修要覧に記載して公表するとともに、学位授与の合否判定の基準とする。

生産工学研究科の学位授与における合否判定審査項目

学位審査は、研究活動、学位論文および公開発表会について、以下の項目で行います。

【審査項目】

- 1 国内外の関連する研究分野を広く調査し、体系的で幅広い知識を獲得した。(論文)
- 2 研究課題を自主的に設定し、その解釈に向けて有益かつ新たな知見を得た。(論文)
- 3 研究課題を他の研究者に説明し討論できた。(学会発表・公開発表)
- 4 当該研究が社会へ寄与する点と環境に及ぼす影響を考慮した。(論文・学会発表・公開発表)
- 5 研究活動においてリーダーシップを発揮できた。(学会発表・公開発表・口頭試問)

【合否判定】

研究活動と学位論文を、上記の5つの項目で審査し、総合的に判断して合格か不合格か判定します。

## Contents

[特長]  
生産工学研究科で“高める”“磨く”“養う” — 04

[奨学金]  
“大学院は奨学金などで学ぶ”という選択 — 06

[就職実績]  
修了後は、より専門性の高い領域で活躍 — 07

生産工学研究科 — 08

マネジメント工学専攻	機械工学専攻
電気電子工学専攻	土木工学専攻
建築工学専攻	応用分子化学専攻
数値情報工学専攻	

研究者紹介 — 09

私たちが生産工学研究科を選んだ理由 — 22



# 生産工学研究科で“高める”“磨く”“養う”

Graduate School of Industrial Technology, Nihon University



## 「高める」学会などで発表

学会参加と論文発表を通じて自らを高める  
大学院生としての学びは、学内での研究活動にとどまりません。むしろその知識と経験は、国内外の学会に参加し、論文発表を行うことによってこそ、高められるものです。生産工学部および大学院生産工学研究科における研究成果を発表し、更なる研究活動の活性化を図ることを目的に毎年開催される「学術講演会」では、優秀な発表を行った学生に優秀学生発表賞が与えられます。また、国内外で開催される国際会議に参加し、研究成果の報告を行う学生も少なくありません。

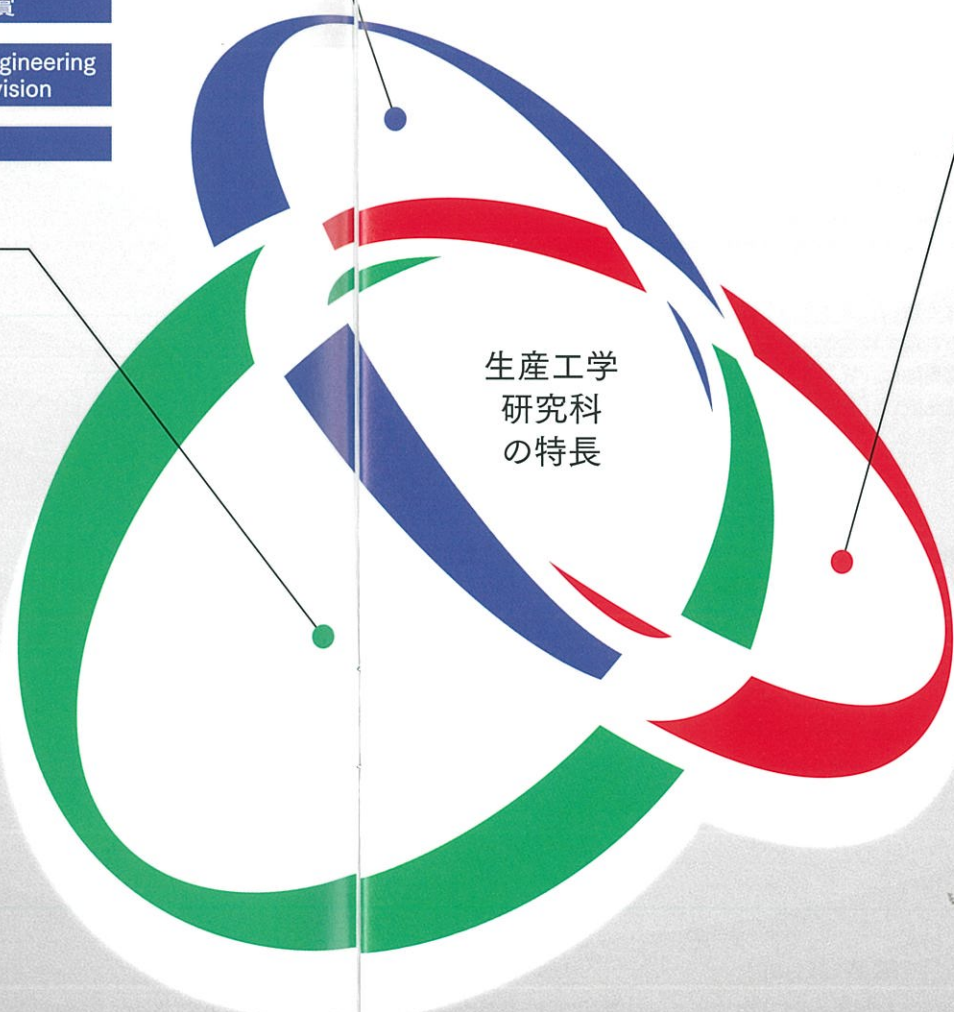
- 日本鑄造工学会第173回全国講演大会 学生優秀講演賞
- 第36回プラズマ・核融合学会年会 若手学会発表賞学生部門
- 廃棄物資源循環学会 優秀ポスター賞
- 2019年度日本建築学会大会 学術講演木質構造部門 優秀発表賞
- 第33回日本キッチン・キトサン学会大会 優秀ポスター賞
- 18th Asian Pacific Confederation of Chemical Engineering Encouragement Award of Separation Process Division
- 第6回海水・生活・化学連携シンポジウム 最優秀賞

## 「磨く」生産工学特別実習

リアルな現場を体験し、実践的でグローバルな能力を磨く  
生産工学研究科では、企業・官公庁・公的機関と提携した「生産工学特別実習」を開講しています。その目的は、国内外でのインターンシップを通して、自ら研究・開発などを計画・遂行する能力を身に付けることにあります。近年は、マツダ、ソニーLSIデザイン、ニチアスなどでインターンシップを行っています。さらに、グローバルに対応できる人材の育成に取り組むため、台湾台北市に所在する中国科技大学での実習にも参加。数理情報工学専攻の学生がモーションキャプチャ技術を取得する一方で、建築工学専攻から参加した学生は、座学やフィールドワークを中心に台湾の歴史的建造物について学びました。この他、国際会議における研究成果発表会に積極的に取り組んだり、短期海外派遣などで海外に行くこともあります。今後、ますます世界を見据えながら、研究開発していける人材の育成に力を入れていきます。



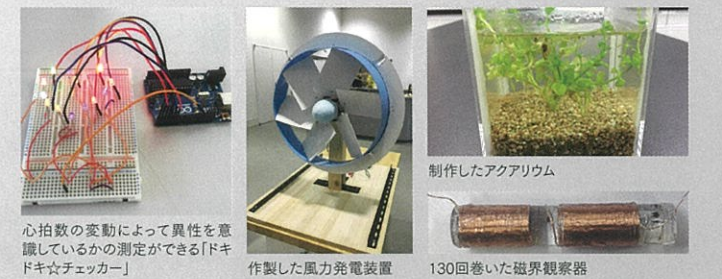
先生方からの質問・コメントが白熱 修了証明書授与後の記念撮影



## 「養う」生産工学特別演習

考え方の視野を広げ、課題解決能力を養う  
「生産工学特別演習」の特長は、専攻が異なる学生によってチームが構成され、さらに、各チームを分野が異なる複数の教員が担当することにあります。視点や考え方が異なるメンバーとの共同作業は、これまで経験したことのない試行錯誤の連続。チームメンバーとしての役割と責任を持って取り組むことで、課題遂行のためのコミュニケーション能力、工程管理能力、プレゼンテーション能力など、実践的能力などが養われます。令和元年度は、「学習教材の開発」「活性白土を用いたカフェイン吸着器具の開発」など6つのテーマが開講されました。

発表テーマ	参加している専攻
学習教材の開発	マネジメント工学、数理情報工学
活性白土を用いたカフェイン吸着器具の開発	機械工学、電気電子工学、建築工学、応用分子化学
大学生活を豊かにするスマートフォンアプリの開発	建築工学、マネジメント工学
エネルギーハーベスティング用受電アンテナの開発	電気電子工学、数理情報工学
界面活性剤無添加オーガニック化粧品の開発	機械工学、電気電子工学
おいしさの可視化	応用分子化学、マネジメント工学



心拍数の変動によって異性を意識しているかの測定ができる「ドキドキ☆チェッカー」 作製した風力発電装置 130回巻いた磁界観察器



【奨学金】

# “大学院は奨学金などで学ぶ”という選択

Graduate School of Industrial Technology, Nihon University

大学院への進学を考える際、誰もが口にするのが「2年間で数百万円の学費をどう工面するか」という課題です。そこで、是非、検討してほしいのが奨学金の存在です。近年、より高度な知識や技術を有する人材へのニーズが高まっていることから、さまざまな企業や研究所、地方団体、財団などが、大学院生に対して給付型の奨学金を設けており、多くの学生がこれを活用しています。学内には優秀な成績を修めた学生の研究活動に対して奨励金を支給する制度もあれば、ティーチング・アシスタント(TA)として収入を得ながら学ぶ方法もあります。意欲的な学生を支える体制は驚くほど充実しているのが現状ですので、まず「学生課」に相談してみるのが第一歩。未来の可能性を手にするために必要なのは、学びに対する熱意と、自らつかみ取ろうとする積極的な姿勢です。

給付型

奨学金額及び採用人数は平成31年度実績

- 日本大学古田奨学金 20万円:1名
- 日本大学ロバート・F・ケネディ奨学金 20万円:1名
- 日本大学創立100周年記念外国人留学生奨学金 授業料相当額:0名
- 日本大学生産工学部奨学金(第一種) 50万円:5名
- 日本大学生産工学部奨学金(第二種) 30万円:0名
- 日本大学生産工学部奨学金(第三種) 50万円:0名
- 日本大学生産工学部校友会奨学金 10万円・20万円・30万円:1名

主な民間団体の奨学金

- 公益法人岩井久雄記念東京奨学育英基金(給付型)
- 公益財団法人日揮・実吉奨学会(給付型)
- 公益財団法人東洋合成記念財団(給付型) 他

博士後期課程への進学者に対する奨学金

- 一般学生 20万円
- 社会人学生 1年次60万円、2・3年次50万円  
(勤務先からの学費支弁を受けている者を除く)

ティーチング・アシスタント(TA)

生産工学研究科の大学院生の中で学部の教育業務の補助をするアルバイトのことです。

給与について

- 前期課程  
1コマ(90分)当たり4,000円 年間最大60コマ(240,000円)まで
- 後期課程  
1コマ(90分)当たり5,000円 年間最大120コマ(600,000円)まで

私費外国人留学生授業料減免制度

日本大学では、学業成績が優秀な私費外国人留学生を対象とした授業料減免制度を実施しています。同制度により、授業料減免者の資格に該当すると認められる者は授業料の20%相当額が減免されます(平成31年度実績)。授業料以外の費用については減免の対象とはなりません。

貸与型

日本学生支援機構

<前期課程>

- 第一種奨学金(無利子)5,8.8万円
  - 第二種奨学金(有利子)5,8,10,13,15万円
- <後期課程>
- 第一種奨学金(無利子)8,12.2万円
  - 第二種奨学金(有利子)5,8,10,13,15万円

第一種奨学金の貸与を受け、特に優れた業績を挙げたと認定されると、全部または一部の返還が免除される制度があります。

<前期課程>

平成31年度:返還免除21名(貸与者71名中31名申請)  
※返還免除者数は予定者数

平成30年度:返還免除16名(貸与者52名中26名申請)  
平成29年度:返還免除16名(貸与者49名中35名申請)

<後期課程>

平成31年度:返還免除1名(貸与者1名中1名申請)  
※返還免除者数は予定者数

平成30年度:返還免除1名(貸与者1名中1名申請)  
平成29年度:返還免除1名(貸与者2名中2名申請)

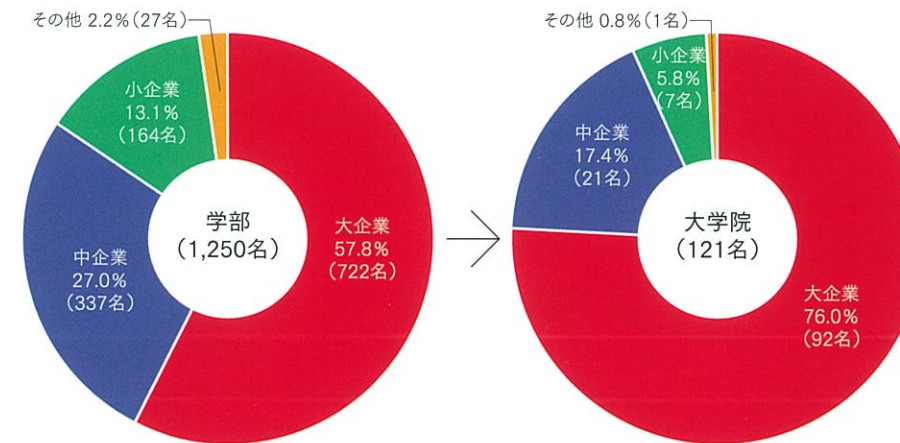
主な地方自治体の奨学金

- 沖縄県国際交流人材育成財団(沖縄県出身、貸与型)
- 新潟市奨学生(新潟市出身、貸与型) 他

【就職実績】

# 修了後は、より専門性の高い領域で活躍

生産工学部の卒業生は、さまざまな生産現場で有能な人材として待望され、活躍しています。しかしながら、開発・研究職など、より専門性が高い領域での活躍を目指すなら、社会に出る前に、もう一歩深い知識と技術を身に付けておくことが求められているのが現状です。大学院を修了した先輩たちは、より広い活躍のフィールドを得て、世界へ羽ばたいています。平成30年度の就職状況を例に見てみると、従業員500人以上の大企業に就職した先輩は、学部卒で57.8%、大学院卒では76.0%。多くの学生がKDDI、三菱電機、東日本旅客鉄道などの優良企業に就職しており、その違いは歴然と現れています。



大学院を卒業すると開発・研究職など専門性の高い分野にも活躍のフィールドが広がる



※平成30年度分類別就職状況  
大企業…従業員500人以上  
中企業…499~100人  
小企業…99人以下

主な就職先

平成30年度

- |              |            |          |
|--------------|------------|----------|
| KDDI(株)      | (株)大林組     | 日本電気(株)  |
| 東日本旅客鉄道(株)   | 三菱電機(株)    | 沖電気工業(株) |
| 東海旅客鉄道(株)    | 本田技研工業(株)  | 凸版印刷(株)  |
| 日本電産(株)      | (株)SUBARU  | (株)タニタ   |
| 日本製紙(株)      | マツダ(株)     | (株)明電舎   |
| アルプスアルパイン(株) | (株)本田技術研究所 |          |

平成29年度

- |               |           |               |
|---------------|-----------|---------------|
| (株)SUBARU     | 大成建設(株)   | 東洋エンジニアリング(株) |
| 三菱電機(株)       | ダイハツ工業(株) | 富士電機(株)       |
| 東海旅客鉄道(株)     | アルプス電気(株) | スズキ(株)        |
| 東日本旅客鉄道(株)    | キャノン(株)   | 日本電気(株)       |
| 日本アイ・ピー・エム(株) | 清水建設(株)   | いすゞ自動車(株)     |
| 本田技研工業(株)     | (株)ディスコ   |               |

平成28年度

- |               |           |            |
|---------------|-----------|------------|
| (株)SUBARU     | 本田技研工業(株) | 凸版印刷(株)    |
| 日本製紙クレシア(株)   | ダイハツ工業(株) | 富士電機(株)    |
| 東日本旅客鉄道(株)    | (株)関電工    | スズキ(株)     |
| 東洋エンジニアリング(株) | (株)安藤・間   | 日本電気(株)    |
| (株)本田技術研究所    | (株)乃村工藝社  | ヤマハモーターパワー |
| 大日本印刷(株)      | ダイダイン(株)  | プロダクツ(株)   |





# 生産工学研究科

Graduate School of Industrial Technology, Nihon University

S Subject of research / 研究テーマ

E External activity / 外部活動

## □ マネジメント工学専攻

マネジメント工学は、企業の“良い経営”を実現するための工学です。企業や社会システム、地球環境も含め、人が関わるあらゆるシステムを最適にマネジメントするための技術を研究します。新しい産業社会に対応できる管理能力を備えた技術者を養成します。

### 主な研究例

シミュレーションによる最適設計とマーケティングによる人気要因分析  
リバースロジスティクス工学による取集運搬・回収システムの設計及び最適化  
品質工学による生産・加工システムの設計と最適化  
人間工学、認知工学、安全工学によるモノづくり、コトづくり

## □ 機械工学専攻

機械工学は、機械を対象とする学問の総称であり、その内容は広範囲に及び、近代産業において中核的な役割を担っています。飛躍的に発展を遂げつつある科学技術に対応できる、柔軟な発想、創造性豊かな能力および協調性を身に付けた、高度な技術者・研究者を養成します。

### 主な研究例

自動車・運転者の双方から目指す安全性向上のための実験的研究  
環境に優しい水素ジェットエンジンの高高度再始動に関する燃焼風洞実験  
高機能性ナノ素材で機械の性能を飛躍的に向上

## □ 電気電子工学専攻

電気電子工学は、電気・電子・情報通信工学に係る学問で、現代社会を牽引しています。人間と自然に対する広い視野と深い知識を基礎として、豊かで安全な社会の実現を目指し、理論的思考と創造力を基礎とし、新しい領域にも自ら考え研究遂行ができる技術者・研究者を養成します。

### 主な研究例

快適で安全な視環境の実現を目指した照明設計手法に関する研究  
様々なプラズマの光学測定および内部素通過の理解  
ドローン空撮映像の解析による車両の追跡に関する研究

## □ 土木工学専攻

土木工学は、国土の保全をはかり、文明の基盤を建設する技術です。土木技術をはじめ、地球環境や生態系の保存、安心・安全な地域社会や市民生活などについて研究を行い、企業等において、国際的視野に立って技術的課題に挑戦できる指導的技術者・研究者を養成します。

### 主な研究例

「荒廃した日本」にしないための技術開発の取組  
道路橋の補修・補強技術の開発および維持管理に関する研究  
衛星データを用いた環境評価技術の開発

## □ 建築工学専攻

建築工学は、空間環境を総合化する学問です。建築計画、都市計画、環境工学、防災工学、材料学等、建築環境の創造に関する広範囲で専門的な研究と学際的な教育を併せて行い、飛躍的に発展する科学技術に対応できる、柔軟で創造力豊かな能力を備えた人材を養成します。

### 主な研究例

さまざまな構造材料を組み合わせた新しい構造の考案と実用化  
建築音響設計などの建築や都市の音に関する研究  
建築とその周辺の環境に関わる幅広い研究

## □ 応用分子化学専攻

応用分子化学は、物質の性質・反応・構造を解明し、活用する学問で、種々の分野へ素材を提供しながらあらゆる科学技術分野に関与しています。グリーンケミストリーを基調とした機能性材料の創出、化学プロセスおよび化学計測システムの開発に携わることのできる技術者・研究者を養成します。

### 主な研究例

目的分子を構築できるナノデザイン  
微生物や免疫反応を利用した臨床化学や環境化学へのアプローチ  
地球環境を守るための新しい材料、化学プロセスの構築

## □ 数理情報工学専攻

個別専門の学問体系にとらわれることなく、幅広く柔軟な思考によって“もの”や“こと”の本質を理解し、数理モデルを構築。情報化社会における生産に関連したあらゆる場面で、高度に進化したシステムを扱うことのできる、新しいタイプの実践的な能力を備えた技術者・研究者を養成します。


### 主な研究例

シリアスゲーム(災害、医療・福祉、教育等)、組織行動のM&S  
音響・振動の数値シミュレーション、自動車や人体の数理モデル化に関する研究  
人工知能(機械学習、論理的手法による地力表現)の研究

## 研究者紹介

### マネジメント工学 専攻


Industrial Engineering and Management



**鈴木 邦成** 早稲田大学大学院修士課程修了 博士(工学)  
すずきくにのり  
メールアドレス: suzuki.kuninori@nihon-u.ac.jp

S ● ロジスティクスシステム  
● 環境共生工学


E 日本ロジスティクスシステム学会理事、日本情報ディレクトリ学会理事



**石橋 基範** 香川大学大学院博士後期課程修了 博士(工学)  
いしばし もとりのり  
メールアドレス: ishibashi.motonori@nihon-u.ac.jp

S ● 人間工学(人間機械システム)  
● 人間の認知・行動特性とその産業応用  
● ヒューマン・マシン・インタフェース  
● 感性工学


E 日本人間工学会理事、日本人間工学会人間工学専門家認定機構幹事、自動車技術会ドライバ評価手法検討部門委員会委員、ヒューマンインタフェース学会論文誌編集委員会委員



**竹島 正博** 日本大学大学院博士後期課程修了 工学博士  
たけしままさひろ  
メールアドレス: takeshima.masahiro@nihon-u.ac.jp

S ● マン・マシンシステム  
● 設計工学  
● 感性工学


E 日本設計工学会出版庶務委員会委員、防せい油JIS原案作成委員会委員長



**五十部 誠一郎** 北海道大学大学院修士課程修了 博士(工学)  
いそべせいいちろう  
メールアドレス: isobe.seiichirou@nihon-u.ac.jp

S ● フードビジネスのためのイノベーション  
● 食品生産工程管理の評価と設計  
● 農産物流通加工システム


E 日本食品科学工学会総務委員、日本食品工学会理事、日本機能水学会評議員



**鳥居塚 崇** 慶應義塾大学大学院博士課程修了 博士(工学)  
とりいづか たかし  
メールアドレス: toriituka.takashi@nihon-u.ac.jp

S ● ヒューマンファクターズ(人間工学)  
● 安全学  
● 人間生活工学  
● 感性工学  
● UXデザイン


E 国際人間工学会連合理事、日本人間工学会安全人間工学部会長、日本工学会アカデミー安全知と安全学委員会委員、国際人間工学会連合Affective Engineering TC副委員長



**酒井 哲也** 東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程修了 博士(工学)  
さかい てつや  
メールアドレス: sakai.tetsuya@nihon-u.ac.jp

S ● 設備の寿命予測  
● デザインエンジニアリング  
● コロージョン・エンジニアリング


E 日本材料科学会理事、ISO/TC35/SC12国内委員会 委員長、化学工学会 化学装置材料部会 有機材料分科会 主査、日本産業廃棄物処理振興センター 感染性廃棄物容器審査委員会 容器審査委員



**豊谷 純** 日本大学大学院博士後期課程修了 博士(工学)  
とよたにじゅん  
メールアドレス: toyotani.jun@nihon-u.ac.jp

S ● 消費者のマーケティング調査と購買要因分析  
● 数値シミュレーションによる音響解析  
● AIによる業務効率化  
● 物流センターの最適配置問題

E 日本情報ディレクトリ学会事務局長理事、日本人材データ標準化協会副会長、日本工学会教育協会工学教育研究講演会委員会委員



**柴 直樹** 東京工業大学大学院修士課程修了 博士(理学)  
しば なおき  
メールアドレス: shiba.naoki@nihon-u.ac.jp

S ● 情報システム開発の方法論  
● 社会・経済システムのシミュレーション  
● 意思決定論・ゲーム理論

E 経営情報学会・論文誌編集委員、計測自動制御学会システム工学部会運営委員



**平田 光子** 慶應義塾大学大学院博士課程修了 博士(経営学)  
ひらた みつこ  
メールアドレス: hirata.mitsuko@nihon-u.ac.jp

S ● 組織戦略と人的資源マネジメント  
●アントレプレナーシップ(企業家学)  
● 社会システム(特に産学連携)

E 日本ベンチャー学会理事・企画運営委員、企業家研究フォーラム理事





**水上 祐治** 青山学院大学大学院博士課程修了 博士(経営管理)  
みずかみ ゆうじ  
メールアドレス mizukami.yuuji@nihon-u.ac.jp

- S ● 研究力・技術力評価の統計的手法の導出  
● デミング経営哲学に基づく業務改善  
● ソフトウェア開発のプロセス改善

E 宇宙航空研究開発機構システム研究員、日本経営システム学会常任理事・編集委員長



**三友 信夫** 東京工業大学大学院博士後期課程修了 博士(工学)  
みとも のぶお  
メールアドレス mitomo.nobuo@nihon-u.ac.jp

- S ● 確率論的リスク評価とその応用  
● 人間信頼性工学  
● ヒューマンファクター

E 日本学術振興会リスクベース設備管理第180委員会庶務幹事、日本材料科学会庶務理事、日本人間工学会海事人間工学研究部会委員、Technical Committee of IEEE SMCS Human Centered Transportation Systems



**村田 康一** 早稲田大学大学院博士後期課程修了 博士(工学)  
むらた こういち  
メールアドレス murata.kouichi30@nihon-u.ac.jp

- S ● 生産管理学  
● リーンマネジメント  
● 知識科学  
● 技術経営

E



**矢野 耕也** 日本大学大学院博士後期課程修了 博士(工学)  
やの こうや  
メールアドレス yano.kouya@nihon-u.ac.jp

- S ● 品質工学による最適化と改善  
● 直交表の品質問題への応用  
● Mahalanobisの距離を用いた多次元データ解析  
● 医学データの計量診断

E 品質工学会理事、品質工学論文誌副編集長



**山本 壽夫** 中央大学大学院博士後期課程修了 博士(学術)  
やまもと ひさお  
メールアドレス yamamoto.hisao40@nihon-u.ac.jp

- S ● ニュービジネスおよび産業集積の創発  
● 文化およびホスピタリティによる地域活性化  
● 自己組織化する都市のマネジメント

E 日本ホスピタリティ・マネジメント学会会長 理事 学術・論文委員長、経営関連学会協議会評議員、社会福祉法人かやの実社理事、日本ベンクラブ会員



**吉田 典正** 早稲田大学大学院博士課程修了 博士(工学)  
よしだ のりまさ  
メールアドレス yoshida.norimasa@nihon-u.ac.jp

- S ● ビジュアルシミュレーション  
● ビジュアル情報処理  
● 情報可視化  
● 形状処理

E CAD国際会議プログラム委員、Cyberworld国際会議プログラム委員、画像電子学会副会長(2019~2021)

# 機械工学 専攻

Mechanical Engineering



**秋濱 一弘** 豊橋技術科学大学大学院修士課程修了 博士(工学)  
あきはま かずひろ  
メールアドレス akiyama.kazuhiro@nihon-u.ac.jp

- S ● 燃焼による煤粒子の生成機構  
● 内燃機関の着火火法および燃焼促進剤  
● 燃焼過程のレーザー計測

E 自動車技術会ガソリン機関部門委員会委員長、自動車技術会計測診断部門委員会委員、自動車技術会フェロー、日本機械学会フェロー



**安藤 努** 東北大学大学院博士課程修了 博士(工学)  
あんどう つとむ  
メールアドレス ando.tsutomu@nihon-u.ac.jp

- S ● コロイド分散液の動的特性とその応用  
● 強磁場を利用した磁気科学の基礎および応用研究  
● 羽根なし攪拌装置の研究  
● 脳底部を標的にした磁気刺激法の研究

E 日本機械学会関東支部千葉ブロック委員、日本磁気科学会理事



**久保田 正広** モナッシュ大学大学院博士後期課程修了 Ph.D.  
くぼた まさひろ  
メールアドレス kubota.masahiro@nihon-u.ac.jp

- S ● メカニカルリング法と放電プラズマ焼結法によるナノ結晶軽量材料の創製と評価  
● 循環型環境対応マグネシウム合金の創製  
● 粉末冶金法で作製したバイオマテリアルの特性  
● リサイクル材料の高機能化

E 軽金属学会関東支部長、軽金属学会国際交流委員会委員、日本金属学会英文誌査読委員、日本機械学会フェロー、日本機械学会材料加工部門 広報・出版委員会委員、日本マグネシウム協会学生マグネシウムデザインコンテスト審査委員長、粉末冶金協会成形加工分科会委員、主要海外雑誌査読委員



**高橋 進** 芝浦工業大学大学院修士課程修了 Ph.D.  
たかはし すずむ  
メールアドレス takahashi.susumu32@nihon-u.ac.jp

- S ● 塑性加工(板成形等)  
● 樹脂成形(射出成形等)  
● 複合材料の成形  
● 金属および高分子材料の機械的的特性の計測

E 日本塑性加工学会フェロー、プラスチック成形加工学会射出成形CAE専門委員会幹事、ISO TC164 SC2日本代表、日本機械学会関東支部商議員、日本金属プレス工業協会理事、アマダスクール優秀板金技能フェア副委員長



**綱島 均** 大阪府立大学大学院修士課程修了 博士(工学)  
つなしま ひとし  
メールアドレス tsunashima.hitoshi@nihon-u.ac.jp

- S ● 車両の運動と制御 ● 機能的近赤外分光法を用いた脳機能計測 ● 鉄道用運転シミュレータの開発  
● 信号処理 ● 故障検出 ● 状態推定 ● マルチボディダイナミクス ● ヒューマンファクター ● ブレイン・コンピュータ・インターフェース

E 日本機械学会交通・物流部門運営委員、NEDO技術評価委員、自動車技術会車両特性デザイン部門委員、日本機械学会学術誌カテゴリマネージャ、日本脳磁図トポグラフィ研究会評議員、日本機械学会フェロー



**野村 浩司** 東京大学大学院博士課程修了 博士(工学)  
のむら ひろし  
メールアドレス nomura.hiroshi@nihon-u.ac.jp

- S ● 噴霧燃焼の基礎研究  
● 微小重力環境を利用した燃料液滴の蒸発・点火・燃焼研究  
● 固体酸化物型燃料電池の性能向上

E 日本機械学会フェロー、自動車技術会電気動力技術部門委員会委員、宇宙科学研究所宇宙工学委員会研究メンバ、JAXA共同研究員



**平山 紀夫** 日本大学大学院博士後期課程修了 博士(工学)  
ひらやま のりお  
メールアドレス hirayama.norio@nihon-u.ac.jp

- S ● 自動車用複合材料の開発と特性評価に関する研究  
● 医療用複合材料の創製と評価に関する研究  
● 先進複合材料の成形と評価に関する研究  
● 有限要素法による軽量構造の最適設計、数値材料試験に関する研究

E 名古屋大学招へい教員、硝子繊維協会JIS原案作成委員会委員長



**前田 将克** 大阪大学大学院博士前期課程修了 博士(工学)  
まえだ まさかつ  
メールアドレス maeda.masakatsu@nihon-u.ac.jp

- S ● 固相接合  
● 異材界面組織制御  
● 摩擦圧接および摩擦攪拌接合  
● 超音波接合

E 溶接学会界面接合研究委員会幹事、溶接学会軽構造接合加工研究委員会幹事、溶接学会全国大会運営委員会委員、日本溶接協会溶接プロセス研究委員会委員、軽金属溶接協会異材接合研究委員会委員、日本塑性加工学会接合・複合分科会幹事、日本塑性加工学会論文誌編集委員会委員、日本マグネシウム協会接合技術分科会委員、他



**松島 均** 慶應義塾大学大学院修士課程修了 工学博士  
まつしま ひとし  
メールアドレス matsushima.hitoshi@nihon-u.ac.jp

- S ● 複雑系における熱流動解析  
● 電子機器の冷却  
● 熱交換用機器の小型・高性能化

E 日本機械学会校閲委員、日本ガス機器検査協会JIS原案作成委員会副委員長、省エネルギーセンター委員





**丸茂 喜高** 東京農工大学大学院博士後期課程修了 博士(工学)  
まるも よしただか  
メールアドレス marumo.yoshitaka@nihon-u.ac.jp

- S ● 車両の運動と制御に関する研究  
● 人間・車両システムに関する研究

E 日本機械学会交通・物流部門代議員、日本機械学会交通・物流部門自動車技術委員会委員、日本機械学会交通・物流部門 広報・出版委員会委員、自動車技術会アクティブセーフティ部門委員会委員、自動車技術会ヒューマンファクター部門委員会委員、自動車技術会論文集校閲委員



**山崎 博司** 広島大学大学院博士課程後期単位取得退学 博士(工学)  
やまさき ひろし  
メールアドレス yamasaki.hiroshi@nihon-u.ac.jp

- S ● 乳化流体の伝熱特性  
● 乳化流体の流動特性  
● 乳化燃料による燃焼制御  
● 乳化燃料のマイクロ爆発  
● 二酸化炭素の回収と輸送

E (一社)日本エネルギー学会企画委員会委員



**今村 宰** 東京大学大学院新領域創成科学研究科博士課程修了 博士(科学)  
いまむら おさむ  
メールアドレス imamura.osamu@nihon-u.ac.jp

- S ● 火花点火のプラズマ挙動に関する研究  
● 柔軟構造エアロセルを用いた再突入機に関する研究  
● 電磁気力を用いた静電微粒化および燃焼制御に関する研究  
● 衝撃波管を用いた点火現象の基礎研究

E 自動車技術会ガソリン機関部門委員会幹事、日本機械学会エンジンシステム部門第96期部門賞委員会幹事、日本機械学会熱工学部門第96期運営委員、日本マイクロ重力応用学会論文編集委員、ISTS32プログラム委員 aセッション副委員長、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所宇宙工学委員会委員



**沖田 浩平** 大阪大学大学院博士後期課程修了 博士(工学)  
おきた こうへい  
メールアドレス okita.kohei@nihon-u.ac.jp

- S ● キャビテーション  
● 医用超音波  
● 数値流体力学

E 日本機械学会Mechanical Engineering Journal Associate Editor



**栗谷川 幸代** 日本大学大学院博士後期課程修了 博士(工学)  
くりやがわ ゆきよ  
メールアドレス kuriyagawa.yukiyo@nihon-u.ac.jp

- S ● 人間と機械の相互作用に関する研究  
● ヒューマンマシンインタフェースに関する研究  
● 運転支援システムに関する研究  
● ドライバモデルに関する研究

E 名古屋大学客員准教授、日本機械学会交通・物流部門自動車技術委員会委員、自動車技術会誌編集委員会副委員長、自動車技術会ドライバ評価手法検討部門委員会委員、日本人間工学会関東支部評議員、日本人間工学会国際協力委員会委員



**坂田 憲泰** 日本大学大学院博士前期課程修了 博士(工学)  
さかた かずひろ  
メールアドレス sakata.kazuhiro@nihon-u.ac.jp

- S ● 自動車用先進複合材料の開発  
● フィラメントワインディング材の成形と力学特性評価  
● 繊維強化熱可塑性プラスチックと金属の異種材料接合  
● ハイブリッド複合材料の開発

E 日本機械学会関東支部商議員、日本機械学会関東支部関東学生会会員校役員、強化プラスチック協会情報・編集委員会委員、自動車技術会関東支部学生生活動参与

## 電気電子工学 専攻

Electrical and Electronic Engineering



**荒巻 光利** 名古屋大学大学院博士課程修了 博士(工学)  
あらかみ みつとし  
メールアドレス aramaki.mitsutoshi@nihon-u.ac.jp

- S ● プラズマのレーザー分光  
● 強結合プラズマ  
● 分光用波長可変レーザーの開発

E (一社)プラズマ・核融合学会基礎領域領域長



**伊藤 浩** 京都大学大学院修士課程修了 博士(情報学)  
いとう ひろし  
メールアドレス ito.hiroshi@nihon-u.ac.jp

- S ● 画像符号化  
● マルチメディア情報セキュリティ

E 電子情報通信学会マルチメディア情報ハイディング・エンリッチメント研究専門委員会 専門委員



**内田 暁** 日本大学大学院博士前期課程修了 博士(工学)  
うちだ あきら  
メールアドレス uchida.akira@nihon-u.ac.jp

- S ● 快適な視環境のための照明設計手法  
● LEDや有機ELの効果的な利用方法  
● 適切な明るさや色のための人間の視覚・色覚特性

E 照明学会情報システム管理委員会幹事、日本照明工業会非常用照明器具自主評定委員会委員、電気設備学会全国大会論文委員会委員、電気学会教育フロンティア技術委員会委員



**黒岩 孝** 日本大学大学院博士課程修了 博士(工学)  
くろいわ たかし  
メールアドレス kuroiwa.takashi@nihon-u.ac.jp

- S ● 画像処理と人工知能による無人運転に関する研究  
● 非線形光学素子による情報処理に関する研究

E



**小山 潔** 日本大学大学院修士課程修了 博士(工学)  
こやま きたし  
メールアドレス koyama.kiyoshi@nihon-u.ac.jp

- S ● 電磁気応用計測に関する研究  
● 構造物のヘルスマonitoringに関する研究

E (社)日本非破壊検査協会表面探傷分科会幹事、(社)日本非破壊検査協会渦流探傷研究委員会委員長、(独)原子力安全基盤機構検査技術検討会委員



**清水 耕作** 大阪大学大学院博士課程修了 博士(工学)  
しみず こうさく  
メールアドレス shimizu.kousaku@nihon-u.ac.jp

- S ● 半導体材料の高信頼性ならびにデバイスの高機能化に関する研究  
● ギャップ内準位の光学的評価  
● 水素化処理および薄膜中の水素の挙動解析

E 応用物理学会プログラム委員、ランダムフォトエレクトロニクス研究会副会長、薄膜材料デバイス研究会組織委員、Cat-CVD研究会実行委員



**霜山 竜一** 岡山大学大学院博士課程修了 博士(工学)  
しもやま りゅういち  
メールアドレス shimoyama.ryuichi@nihon-u.ac.jp

- S ● 知能情報処理  
● コンピュータビジョン  
● 信号処理  
● ウェアラブル型聴覚支援システム

E



**関 智弘** 東京理科大学大学院修士課程工学研究課了 博士(工学)  
せき ともひろ  
メールアドレス seki.tomohiro@nihon-u.ac.jp

- S ● アンテナ・伝搬  
● 無線電力伝送  
● 高速無線通信システム  
● RF-IDシステム

E 電子情報通信学会 WPT研究専門委員会 副委員長、電子情報通信学会 SRW研究専門委員会 委員、IEICE Electronics Express編集委員会 編集委員



**中西 哲也** 日本大学卒業 工学博士  
なかにし てつや  
メールアドレス nakanishi.tetsuya@nihon-u.ac.jp

- S ● 粒子線がん治療装置  
● 粒子線加速器  
● 粒子線照射装置

E





**新妻 清純** 日本大学大学院修士課程修了 博士(工学)  
にいづま きよずみ  
メールアドレス niiduma.kiyozumi@nihon-u.ac.jp

S ● 高飽和磁化を有する窒化鉄の生成に関する研究  
● 磁性半導体の生成に関する研究


E



**原 一之** 金沢大学大学院博士課程修了 博士(工学)  
はら かずゆき  
メールアドレス hara.kazuyuki@nihon-u.ac.jp

S ● ソフトコンピューティング  
● 学習機械の理論解析

E



**工藤 祐輔** 山形大学大学院理工学研究科システム情報工学専攻博士後期課程修了 博士(工学)  
くどう ゆうすけ  
メールアドレス kudo.yusuke@nihon-u.ac.jp

S ● 静電気応用に関する研究  
● レドックスフロー電池に関する研究

E (一社)静電気学会理事、(一社)静電気学会誌編集委員

## 土木工学 専攻

### Civil Engineering



**青山 定敬** 日本大学大学院博士後期課程修了 博士(工学)  
あおやま さだよし  
メールアドレス aoyama.sadayoshi@nihon-u.ac.jp

S ● 衛星データによる災害被害判読に関する研究  
● 衛星データによる海岸線の生育評価

E 千葉県森林審議会委員、千葉県農林公共事業評価審議会委員、JAXA人工衛星データの水害への活用検討WG委員



**秋葉 正一** 日本大学大学院博士課程修了 博士(工学)  
あきば しゅういち  
メールアドレス akiba.shouichi@nihon-u.ac.jp

S ● 土質・舗装材料の材料評価  
● アスファルト舗装廃材・産業副産物のリサイクル

E 国土交通省社会資本整備審議会専門委員



**伊藤 義也** 日本大学大学院博士前期課程修了 博士(工学)  
いとう よしなり  
メールアドレス itou.yoshinari@nihon-u.ac.jp

S ● コンクリートの耐久性  
● コンクリートの物性  
● 高流動コンクリート  
● 産業副産物のリサイクル

E 土木学会/JABEE技術者教育プログラム審査委員会・オブザーバー



**岩下 圭之** 日本大学大学院博士前期課程修了 博士(工学)  
いわした けいし  
New York University, Science Academy修了Ph. D  
メールアドレス iwashita.keishi@nihon-u.ac.jp

S ● 衛星データに対する複合ラジオメトリック補正法の構築および利用による海洋環境・水質環境評価  
● その他の研究テーマとして  
1) 都市化指標NDBIによる都市のスプロール現象解析  
2) TSI視覚化による湖沼水質のモニタリング手法の開発

E 1) (社)土木学会、2) (社)日本リモートセンシング学会(国際委員会:平成13年5月1日〜、学術委員会委員:平成4年4月1日〜、表彰委員会委員:平成13年5月1日〜)、3) (社)計測自動制御学会、4) Environmental Monitoring Association of U.S.A.(米国)、5) American Association for the Advancement of Science(米国)、6) The New York Academy of Science(米国)、7) American Photogrammetry & Remote Sensing(米国)、8) American Geographical Union(米国、広報委員:平成15年10月〜、9) 環境情報科学センター、10) (社)日本下水道協会、11) 日本海岸学会、12) 米国環境監視協会、東アジア地域学術編集委員(平成9年8月1日〜)、13) カリフォルニア大学(UCLA)大学院特別講師(平成10年8月7日〜)

## 研究者紹介



**鵜澤 正美** 中央大学大学院修士課程修了 博士(工学)  
うざわ まさみ  
メールアドレス uzawa.masami@nihon-u.ac.jp

S ● 環境負荷を低減したコンクリート製品に関する研究  
● 超高強度コンクリートの超高強度発現メカニズムの解明  
● 未利用資源のコンクリート混和材への適用性に関する研究

E



**小田 晃** 日本大学大学院博士後期課程単位取得退学 博士(工学)  
おだ あきら  
メールアドレス oda.akira@nihon-u.ac.jp

S ● 天然ダムの決壊  
● 流砂量計測手法の開発  
● 粒径推定手法の開発

E 社団法人砂防学会新潟県中越地震土砂災害調査研究委員会委員、千葉県作田川流域懇談会委員長



**澤野 利章** 日本大学大学院博士後期課程単位取得退学 工学博士  
さわの としあき  
メールアドレス sawano.toshiaki@nihon-u.ac.jp

S ● 粒状物体により構成される層状構造体の非線形せん断振動応答実験研究  
● 鉄筋コンクリート部材の繊維シート補強に関する研究  
● 構造物の免震装置に関する研究

E 土木学会関東支部技術情報部会幹事



**鷺見 浩一** 日本大学大学院生産工学研究科(博士後期課程)土木工学専攻修了 博士(工学)  
すみ ひろかず  
メールアドレス sumi.hirokazu@nihon-u.ac.jp

S ● 市町村の防災対策の調査と災害対応力の育成に関する研究  
● 斜降渦の平面的な分布特性に関する研究  
● 堤体の構成材の相違による人工リーフの断面変化に関する研究

E 土木学会海洋開発委員会委員、土木学会論文編集委員会委員、土木学会技術推進機構継続教育実施委員会委員、土木学会教育企画・人材育成委員会幹事長兼委員



**高橋 岩仁** 日本大学大学院博士課程修了 博士(工学)  
たかはし いわひと  
メールアドレス takahashi.iwahito@nihon-u.ac.jp

S ● 高塩分濃度対応の活性汚泥法に関する研究  
● 竹資材を用いた緑化基盤材の検討  
● 下水道資源の有効活用技術に関する研究

E 千葉県建設工事総合評価委員会委員、千葉県県土整備公共事業評価審議会委員、千葉県下水道公社建設工事総合評価委員会委員、習志野市環境審議会委員



**武村 武** 埼玉大学大学院理工学研究科博士後期課程修了 博士(学術)  
たけむら たけし  
メールアドレス takemura.takeshi@nihon-u.ac.jp

S ● 水圏環境の評価  
● 粗度による流れの変化の評価  
● 水圏における植生動態の定量的評価

E 土木学会 2級技術者資格委員会委員



**西尾 伸也** 北海道大学大学院修士課程修了 工学博士  
にしお しんや  
メールアドレス nishio.shinya@nihon-u.ac.jp

S ● 海洋資源開発における海底地盤の安全性評価  
● 弾性波計測に基づく地盤物性評価  
● 原位試験による海底堆積土の力学特性評価

E



**保坂 成司** 日本大学大学院博士前期課程修了 博士(工学)  
ほさか せいじ  
メールアドレス hosaka.seiji@nihon-u.ac.jp

S ● 下水道管の老朽化予測および異状発生予測に関する研究  
● 耐硫酸コンクリートに関する研究

E (公社)日本下水道管路管理業協会JIS A 7501(下水道管路維持管理計画の策定に関する指針)改正原案作成委員会委員長、(公社)日本下水道管路管理業協会試験委員会委員長、(公社)土木学会関東支部学会認定技術者資格試験実施部会幹事、(一財)建設業振興基金登録基幹技術者制度推進協議会委員



**水口 和彦** 日本大学大学院博士後期課程修了 博士(工学)  
みなくち かずひこ  
メールアドレス minakuchi.kazuhiko@nihon-u.ac.jp

S ● RC部材の劣化診断と補修・補強技術  
● 凍害・塩害を受けたRC床版の劣化損傷評価  
● 輪荷重走行疲労試験によるRC部材の耐疲労性評価

E 土木学会鋼構造委員会委員、土木学会JABEE技術者プログラム審査委員会オブザーバー、科学技術振興機構A-STEPTライアウト専門委員



**森田 弘昭** 東北大学工学部土木工学専攻修士課程修了 博士(工学)  
もりた ひろあき  
メールアドレス morita.hiroaki@nihon-u.ac.jp

S ● 下水道資源の有効活用技術に関する研究  
● 地下インフラ技術の海外展開に関する研究

E 環境技術学会 編集委員、国土交通省 PPP/PFI委員会委員長、浜松市 PFI検討専門委員会委員長、(公社)下水道協会 再生と利用編集委員会委員長、ベトナム委員会委員長、農林水産省 バイオマス専門検討委員会委員





**朝香 智仁** 日本大学大学院博士後期課程修了 博士(工学)  
あさか ともひと  
メールアドレス asaka.tomohito@nihon-u.ac.jp

- S
- 合成開口レーダによる土木構造物の変位量推定
  - 衛星データによる数値地形モデルの作成と応用
  - UAVレーザおよびマルチスペクトルカメラによる樹勢評価
  - 気温分布と都市計画との時空間における関係性

E 日本リモートセンシング学会学術委員、日本リモートセンシング学会事務局員、静岡県/三保松原「羽衣の松」及び周辺の老齢大木保全に向けた土壌調査、助言および調査員、(一社)地理空間情報推進協会 副代表理事



**加納 陽輔** 日本大学大学院生産工学研究科博士後期課程修了 博士(工学)  
かのう ようすけ  
メールアドレス kanou.yousuke@nihon-u.ac.jp

- S
- 舗装材料の持続的利用
  - アスファルトの若返り技術
  - 舗装材料の老化予測

E (社)土木学会:舗装工学委員会、舗装工学論文編集小委員会、舗装工学環境小委員会、舗装工学環境分科会、舗装工学振動分科会、土木技術映像委員会、映像アーカイブ小委員会、e-learning運営小委員会等における委員・幹事・幹事長、(社)日本道路協会:国際会議(ISAP)論文委員会、舗装技術海外特別委員会等における委員および幹事



**野中 崇志** 東京工業大学大学院 博士課程修了 博士(工学)  
のなか たかし  
メールアドレス nonaka.takashi@nihon-u.ac.jp

- S
- 時系列衛星画像を用いた被災情報の抽出
  - 衛星による湖の解氷日推定手法の開発
  - 航空機レーザデータを用いた3次元森林構造の解析
  - 合成開口レーダの干渉解析によるセンサ特性の評価

E 琉球大学法文学部非常勤講師、大規模災害衛星画像解析支援チーム委員、日本、リモートセンシング学会事務局委員、日本リモートセンシング学会広報委員

## 建築工学 専攻

Architecture and Architectural Engineering



**岩田 伸一郎** 京都大学大学院修士課程修了 博士(工学)  
いわた しんいちろう  
メールアドレス iwata.shinichiro@nihon-u.ac.jp

- S
- 建築空間および生活環境の計画と評価
  - 高齢化社会の地域コミュニティ・デザイン
  - AEDの配置計画手法
  - 施設や生活環境の計画論と評価手法
  - ノンエンジニアド建築の構法システム
  - 地域支援のための市民活動の拠点づくり

E



**神田 亮** 日本大学大学院修士課程修了 博士(工学)  
かんだ まこと  
メールアドレス kanda.makoto38@nihon-u.ac.jp

- S
- 構造物の動的設計法について
  - 構造物の空力振動現象について

E 日本建築学会減衰小委員会委員



**北野 幸樹** 日本大学大学院博士前期課程修了 博士(工学)  
きたの こうき  
メールアドレス kitano.koki@nihon-u.ac.jp

- S
- 近隣空間における余暇活動の発生特性と時間的・空間的相補関係
  - 地域固有の人・活動・空間・時間の継承・デザイン
  - 居住者参加型の住まいづくり・地域主体の持続的まちづくり
  - まちづくり活動と余暇活動の創発的関係

E



**小松 博** 日本大学卒業 博士(工学)  
こまつ ひろし  
メールアドレス komatsu.hiroshi@nihon-u.ac.jp

- S
- 組立補剛された山形鋼圧縮材の座屈耐力
  - 金属材料と木質材料による合成構造への適用

E



**塩川 博義** 日本大学大学院博士前期課程修了 博士(工学)  
しおかわ ひろよし  
メールアドレス shiokawa.hiroyoshi@nihon-u.ac.jp

- S
- サウンドスケープ
  - 建築音響

E 日本サウンドスケープ協会理事



**中澤 公伯** 日本大学大学院生産工学研究科建築工学専攻 博士後期課程修了 博士(工学)  
なかざわ きみのり  
メールアドレス nakazawa.kiminori@nihon-u.ac.jp

- S
- BIM
  - 地理情報科学

E 日本建築学会情報システム技術本委員会幹事、日本建築学会情報システム利用技術システムシンポジウム論文WG主査、日本建築学会地域空間情報デザイン小委員会主査、関東学生景観デザインコンペティション実行委員会実行委員長



**廣田 直行** 日本大学大学院博士前期課程修了 博士(工学)  
ひろた なおゆき  
メールアドレス hirota.naoyuki@nihon-u.ac.jp

- S
- 施設オープン化の方法論
  - コミュニティ施設の計画論
  - 公的ストック空間の循環要件

E



**藤本 利昭** 日本大学大学院博士前期課程修了 博士(工学)  
ふじもと としあき  
メールアドレス fujimoto.toshiaki@nihon-u.ac.jp

- S
- 合成構造の耐震性能に関する研究
  - 既存建物の耐震性能評価法に関する研究

E 日本建築学会鋼コンクリート合成構造運営委員会委員、日本建築学会鉄筋コンクリート構造運営委員会委員、日本建築学会CFT構造設計基準小委員会委員



**師橋 憲貴** 日本大学大学院博士前期課程修了 博士(工学)  
もろはし のりたか  
メールアドレス morohashi.noritaka@nihon-u.ac.jp

- S
- あと施工アンカーに関する研究
  - 再生骨材コンクリート染部材の付着性状

E 日本施設園芸協会構造診断指導委員会委員



**湯浅 昇** 東京工業大学大学院修士課程修了 博士(工学)  
ゆあさ のぼる  
メールアドレス yuasa.noboru@nihon-u.ac.jp

- S
- 表層コンクリートの品質
  - 各種建築材料の暴露試験
  - RC造の非破壊試験方法
  - コンクリートの仕上材のふくれはがれ
  - コンクリート構造物の解体

E 日本建築学会解体工事小委員会委員長、日本非破壊検査協会RC部門主査、日本コンクリート工学会役員候補者推薦調整委員会委員長、日本工学会論文審査委員会委員長、他



**渡辺 康** 東京藝術大学卒業 修士(芸術学)  
わたなべ やすし  
メールアドレス watanabe.yasushi@nihon-u.ac.jp

- S
- 建築設計
  - 住宅・集合住宅・改修・家具・遊具の研究
  - 民家再生・集落再生の研究

E (公財)建築技術教育普及センターインテリアプランナー審査委員



**下村 修一** 日本大学大学院博士後期課程修了 博士(工学)  
しもむら しゅういち  
メールアドレス shimomura.shuichi@nihon-u.ac.jp

- S
- エネルギーの釣合に基づく地盤の液化化評価
  - 掘底抗の群杭効果
  - ソイルセメント壁の鉛直支持力
  - 杭の水平抵抗評価

E 日本建築学会基礎構造運営委員会委員、日本建築学会仮設構造運営委員会委員、地盤工学会地盤工学表記法委員会委員、総務省公害等調整委員会専門委員



**三上 功生** 日本大学大学院博士前期課程修了 博士(工学)  
みかみ こうせい  
メールアドレス mikami.kousei@nihon-u.ac.jp

- S
- 脊椎損傷者の温熱環境
  - 環境人間工学

E 人間-生活環境系学会評議員、日本人間工学会代議員、日本人間工学会関東支部委員、日本建築学会温熱感小委員会委員、日本建築学会環境バリアフリー小委員会委員、日本建築学会関東支部常議員



# 応用分子化学 専攻

Applied Molecular Chemistry



**柏田 歩** 名古屋工業大学大学院博士後期課程修了 博士(工学)

かしわだ あゆみ  
メールアドレス kashiwada.ayumi@nihon-u.ac.jp

- 標的指向性を有するドラッグデリバリーシステムの構築
- 生体材料を目指したヒドロゲルの合成と評価
- 新規なペプチド超分子の創製

E



**坂本 恵一** 日本大学大学院博士前期課程修了 博士(工学)

さかもと けいいち  
メールアドレス sakamoto.keiichi@nihon-u.ac.jp

- 太陽電池用近赤外吸収フタロシアニンの合成
- ガン光線治療法用光増感色素の合成
- 化学物質管理

E 文部科学省国家資格試験委員、厚生労働省粉じん対策指導委員、(社)日本技術士会修習支援委員会委員長、先端複合技術研究会会長、桜門技術士会副会長



**清水 正一** 日本大学卒業 博士(理学)

しみず しょういち  
メールアドレス shimizu.shouichi@nihon-u.ac.jp

- 新規カリックスアレーン誘導体の合成と応用
- グリーン反応溶媒を用いる新規合成反応系の開発
- 機能性超分子材料の開発

E (社)近畿化学協会代議員、フロー・マイクロ合成研究会常任幹事



**津野 孝** 日本大学大学院博士前期課程修了 博士(薬学)、Dr. rer. nat.

つの たかし  
メールアドレス tsuno.takashi@nihon-u.ac.jp

- 光学活性金属錯体の合成ならびに立体化学
- アレン基を伴った電子不足アルケンの光化学反応
- 光化学的手法を利用した小環化合物の合成

E Crystals, Editor



**中釜 達朗** 東京都立大学大学院修士課程修了 博士(工学)

なかがまたつろう  
メールアドレス nakagama.tatsuro@nihon-u.ac.jp

- 液滴などの微小抽出体でのマイクロ抽出システムの開発
- マイクロプラズマを用いた原子発光検出デバイスの開発
- 環境調和型液体クロマトグラフィーの提案

E (社)日本分析化学会代議員(平成17・18年度)および関東支部若手の会代表・常任幹事(平成14・15年度)、JIS原案作成委員会委員(K0108(平成20年度)およびK0114(平成22年度))



**藤井 孝宜** 筑波大学大学院博士課程修了 博士(理学)

ふじいたかよし  
メールアドレス fujii.takayoshi@nihon-u.ac.jp

- 新奇な電子状態を持つ配位子の設計と合成
- 新規金属錯体の合成と発光特性
- 新規金属触媒の開発
- 環境調和型触媒プロセスの開発

E



**古川 茂樹** 日本大学大学院博士前期課程修了 博士(工学)

ふるかわ しげき  
メールアドレス furukawa.shigeki@nihon-u.ac.jp

- バイオディーゼル燃料合成不均一触媒の開発
- 超臨界二酸化炭素中での2-ナフトールに対する位置選択的カルボキシル化
- 熱水処理によるフミン酸からフルボ酸への転換

E



**南澤 宏明** 日本大学大学院博士前期課程修了 博士(工学)

みなみさわ ひろあき  
メールアドレス minamisawa.hiroaki@nihon-u.ac.jp

- 黒鉛炉原子吸光分析法およびICP発光分析法による環境試料中の微量金属イオンの定量
- 固相抽出法による金属イオンの予備濃縮
- 各種吸着体を用いる環境試料からの重金属イオンの除去

E 日本キチン・キトサン学会理事(平成19・20年度)、日本分析化学会関東支部代議員(平成20・21年度)、日本分析化学会関東支部幹事(平成16・17年度)他



**山田 和典** 日本大学大学院博士前期課程修了 博士(工学)

やまだ かずのり  
メールアドレス yamada.kazunori@nihon-u.ac.jp

- グラフト重合による高分子材料の機能化
- 高分子材料への酵素の固定化
- 酵素による環境汚染物質の除去

E 独立行政法人産業技術総合研究所客員研究員、高分子学会千葉地域活動幹事会幹事、高分子学会代議員、高分子学会関東支部常任幹事

## 研究者紹介



**吉宗 一晃** 京都大学農学研究科修士課程修了 博士(農学)

よしもね かずあき  
メールアドレス yoshimune.kazuaki@nihon-u.ac.jp

- 極限環境に適応した酵素の機能構造相関解析
- 新規バイオマーカーの探索

E PACON International編集委員、J Biol Macromol 編集委員



**市川 隼人** 北海道大学大学院博士後期課程修了 博士(理学)

いちかわ はやと  
メールアドレス ichikawa.hayato64@nihon-u.ac.jp

- 環境調和型酸化反応の開発
- 新規ヘテロ環化合物合成
- 典型元素を利用する有機合成反応の開発

E



**岡田 昌樹** 千葉工業大学大学院博士後期課程修了 博士(工学)

おかだ まさき  
メールアドレス okada.masaki@nihon-u.ac.jp

- プラズマ化学
- 触媒の調製と反応
- バイオマス資源の利用

E 日本海学会編集委員



**小森谷 友絵** 日本大学大学院博士前期課程修了 博士(工学)

こもりや ともえ  
メールアドレス komoriya.tomoe@nihon-u.ac.jp

- 化学物質管理のためのPPCPsの環境浄化に関する研究
- 生物機能を利用した微量定量に関する研究

E



**齊藤 和憲** 日本大学大学院博士前期課程修了 博士(理学)

さいとう かずのり  
メールアドレス saitou.kazunori@nihon-u.ac.jp

- 電気化学的手法を用いた液体クロマトグラフィーシステムの創案と開発
- 環境水中の金属イオンの酸化状態別分析法の開発

E 日本分析化学会(代議員)、日本分析化学会関東支部若手の会幹事



**田中 智** 日本大学大学院博士前期課程修了 博士(工学)

たなか さとし  
メールアドレス tanaka.satoshi@nihon-u.ac.jp

- 無機材料を用いた環境または技術問題の解決
- ソフトケミカル手法を用いた機能材料のデザインと合成

E 無機マテリアル学会編集委員、無機マテリアル学会財務委員



**保科 貴亮** 同志社大学大学院博士後期課程修了 博士(工学)

ほしな たかあき  
メールアドレス hoshina.takaaki@nihon-u.ac.jp

- 液化ガス+有機溶媒混合系の誘電物性
- 液化ガス+有機溶媒混合系の沸点
- アミン水溶液のCO<sub>2</sub> 吸収に伴う物性変化
- 高圧力下における溶液の密度・粘度測定

E 化学工学会基礎物性部会幹事、化学工学会超臨界流体部会幹事、日本高圧化学会編集委員



**山根 庸平** 広島大学大学院博士後期課程修了 博士(理学)

やまね ようへい  
メールアドレス yamane.yohei@nihon-u.ac.jp

- 二次電池材料の開発と応用
- 固体におけるイオン伝導機構の解明
- 機能性セラミックスの成膜に関する研究

E



**吉野 悟** 横浜国立大学大学院環境情報学府環境リスクマネジメント専攻博士課程後期修了 博士(工学)

よしの さとる  
メールアドレス yoshino.satoru@nihon-u.ac.jp


- エアバッグシステム用ガス発生剤の分子設計
- 新規エネルギー物質の合成
- 化学物質の危険性評価手法の構築

E 火薬学会編集委員会委員、火薬学会企画委員会委員、火薬学会評議員、安全工学会将来構想委員、火薬学会自動車用安全部品専門部会幹事、日本機械学会 産業・化学機械と安全部門運営委員



## 数理情報工学 専攻

Mathematical Information Engineering



**内田 康之** 東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程 博士(工学)  
 うちだ やすゆき  
 メールアドレス uchida.yasuyuki@nihon-u.ac.jp

**S**

- 不整地移動ロボットに関する研究
- レスキューロボットに関する研究
- コミュニケーションロボットに関する研究
- 福祉機器のデザインに関する研究

**E**



**岡 哲資** 東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻博士課程 博士(工学)  
 おか てつし  
 メールアドレス oka.tetsushi@nihon-u.ac.jp

**S**

- インタラクティブシステム
- ロボティクス
- ウェアラブルコンピュータ
- バーチャルリアリティシステム

**E**



**角田 和彦** 日本大学大学院博士後期課程修了 工学博士  
 かくだ かずひこ  
 メールアドレス kakuda.kazuhiko@nihon-u.ac.jp

**S**

- 複雑流れ場の数値シミュレーション
- GPUによる計算の高速化
- 深層学習による流体シミュレーション

**E** 日本計算数理工学会評議員、CMES: Computer Modeling in Engineering & Sciencesの論文編集委員、International Conference on Computational & Experimental Engineering and Science (2019)の組織委員会委員、ICCES Special Symposium on Meshless & Other Novel Computational Methods (2010-2013)の学術委員会委員




**栃窪 孝也** 東京工業大学大学院 理工学研究科集積システム専攻博士後期課程修了 博士(工学)  
 とちくぼ こうや  
 メールアドレス tochikubo.kouya@nihon-u.ac.jp

**S**

- 情報理論
- 情報セキュリティ

**E**



**中村 喜宏** 徳島大学大学院修士課程修了 博士(工学)  
 なかむら よしひろ  
 メールアドレス nakamura.yoshihiro@nihon-u.ac.jp

**S**

- ヒューマンコンピュータインタラクション
- Webインテリジェンスとインタラクション
- ウェアラブルコンピュータ向け入力インタフェース

**E**



**古市 昌一** 慶應義塾大学大学院博士後期課程修了 博士(工学)  
 ふるいち まさかず  
 メールアドレス furuichi.masakazu@nihon-u.ac.jp

**S**

- モデリング&シミュレーション(交通、災害、歴史等)
- シリアスゲーム構築技術(英語教育、医療・福祉等)

**E** 日本デジタルゲーム学会 理事、IEEE 1516 仕様策定委員、シリアスゲームジャム実行委員、DiGRA2019プログラム委員



**細川 利典** 明治大学卒業 博士(工学)  
 ほそかわ としのり  
 メールアドレス hosokawa.toshinori@nihon-u.ac.jp

**S**

- システム及びLSIの設計・テスト用CADアルゴリズム
- LSIのセキュアテストとトロイ検出・IPの論理暗号化
- システム及びLSIの故障診断

**E** IEEE Workshop on RTL and High level Testingの運営委員、電子情報通信学会ディペンダブルコンピューティング研究専門委員




**見坐地 一人** 日本大学大学院博士前期課程修了 博士(工学)  
 みさぢ かずひと  
 メールアドレス misaji.kazuhito@nihon-u.ac.jp

**S**

- 振動/音響・人体筋骨格シミュレーション
- 数理モデル化(非線形振動、統計的エネルギー解析法(SEA法)、Biotモデル)

**E** 自動車技術会 論文校閲委員、同振動騒音部門委員、JIS原案作成委員会 評議委員、自動車技術会フェロー、自動車技術会フェローエンジニア




**新井 雅之** 東京都立大学大学院工学研究科電気工学専攻修士課程修了 博士(工学)  
 あらい まさゆき  
 メールアドレス arai.masayuki@nihon-u.ac.jp

**S**

- ディペンダブルコンピューティング
- LSI設計・テスト

**E** 電子情報通信学会ディペンダブルコンピューティング研究専門委員会幹事

## 研究者紹介



**伊東 拓** 筑波大学大学院システム情報工学研究科博士課程修了 博士(工学)  
 いとう たく  
 メールアドレス itoh.taku@nihon-u.ac.jp

**S**

- 形状モデリング
- 可視化
- 高性能計算
- 数値線形代数

**E** 日本シミュレーション学会理事、国際会議JSST2018, 2019 Publication Co-Chair



**野々村 真規子** お茶の水女子大学大学院博士課程修了 博士(理学)  
 ののむら まきこ  
 メールアドレス nonomura.makiko@nihon-u.ac.jp

**S**

- 細胞集団の数値モデリング
- 非線形現象の数値計算

**E**



**目黒 光彦** 慶應義塾大学大学院後期博士課程修了 博士(工学)  
 めぐろ みつひこ  
 メールアドレス meguro.mitsuhiko@nihon-u.ac.jp

**S**

- デジタル画像処理
- 視覚システム

**E** 電子情報通信学会スマートインフォメディアシステム研究専門委員

※令和2年4月1日時点で指導できる教授及び准教授を掲載しております。なお、新たに追加となる場合があります。



# 私たちが生産工学研究科を選んだ理由

Graduate School of Industrial Technology, Nihon University

博士前期課程修了 ▶ 就職



鶴見 智成 ● 電気電子工学専攻 博士前期課程修了  
三菱電機株式会社

## 電気電子工学科 ▶ 電気電子工学専攻 技術者としてのバックボーンを 広げたかった

エンジンやバッテリーがなければ自動車も鉄の塊。そういう視点で周りを見渡すと、電気電子の世界は限りなく広い。もっと電気について知りたいと考え電気電子工学科に入学しました。専門知識をより深く学びたいという想いが強かったこと、また、社会人になる上で専門性のある幅広いバックボーンを持ちたかったため進学を選びました。その選択は間違っていまませんでした。大学院では学会活動を通じて、他大学の先生方や学生などとも意見を交わし、視野を広げたり、人脈を作るチャンスを得ました。生産工学特別演習の授業では異なる専攻の学生とともに、ひとつのプロジェクトに取り組むなど、会社に入ったときに役立つプロジェクト管理能力を身に付けることもできました。大学院ではティーチング・アシスタント(TA)とアルバイトの収入があり、古田奨学金を受けていました。古田奨学金は学びの成果が評価される制度なので、勉強の励みになり、家族の負担を減らしながら学べます。また、ティーチング・アシスタントとして学部生の教育指導に関する補助を行うことで、指導を受ける立場から指導する立場へ。学部3年生のときに三菱電機のインターンシップに参加した縁で、三菱電機へ入社。今後は大学院での学びを活かして技術者として成長していきたいです。

博士前期課程修了 ▶ 博士後期課程



井上 大成 ● マネジメント工学専攻 博士前期課程修了  
博士後期課程

## マネジメント工学科 ▶ マネジメント工学専攻 研究の楽しさ、人との出会いが 研究者としての自分の糧に

就職か進学かは人生における大きな選択ですが、研究が楽しかったこと、それが大学院に進学した一番の決め手です。もちろん研究では思うような結果が出ず壁にぶつかるとも多くありますが、先生や研究室のメンバーとの議論から解決の糸口が見えることもあり、問題を乗り越える度に自身の成長を実感しています。所属する吉田研究室では、情報工学を社会のために役立てる方法について研究が行われています。情報工学の分野は幅広いので、メンバーとのやり取りの中で自分の専門以外の考えや価値観にも触れ、自分にわからない技術に対してはなぜそうなのかを議論するなど、毎日刺激を受けています。相手にわかりやすく伝えるプレゼン力や、自分が持っている知識を相手の専門分野でどう活かせるか考える力も鍛えられました。生産工学特別実習では、台湾の大学で2週間のインターンシップを経験。社会や文化が違えば求められる技術も違うという発見は新鮮でした。今後研究者として歩んでいくうえで、こうしたすべての経験が大きな力になると思います。現在は情報工学と人間工学を用いて人の特性を数値化し、教育等の分野で自己改善や指導のサポートにつなげることができないか研究しています。この研究をさらに深めるために、博士後期課程への進学も決めました。実際に研究を社会で応用できれば、教育機関はもちろん企業における人材育成等にも活用できます。そんなふうに自分の研究が実社会で使われる日が来ることを考えるとワクワクして、研究へのさらなる意欲につながっています。

在職しながら博士後期課程修了



河野 亮 ● 機械工学専攻 博士後期課程修了  
三菱重工業株式会社

## 仕事と学業を両立させながら 研究者としての キャリアの基盤を築く

加工シミュレーションを  
極めたい

地元名古屋の大学を卒業後、同大学の大学院修士課程に進学。その後、就職して、現在は三菱重工業で航空機部品製造工程の加工シミュレーション業務を担当しています。航空機の部品をつくる際には、金型に密着させて成形していきますが、金型にぴったりの形でできるのではなく、そこからはねあがる現象が起きます。これをシミュレーションにより予測し、設計図面通りに部品をつくれるようにするのが加工シミュレーション。コンピュータを使って正確に形を予測することで、精度の高いものづくりができ、安全性の観点からも壊れにくい部品をつくることができます。比較的新しい技術のため、シミュレーション結果と実現現象が合わないこともあり、悩んでいました。より高い精度で予測できるようになりたい。大学院進学を決意したのはそんな思いからでした。

とことん研究に  
向き合えることが楽しい

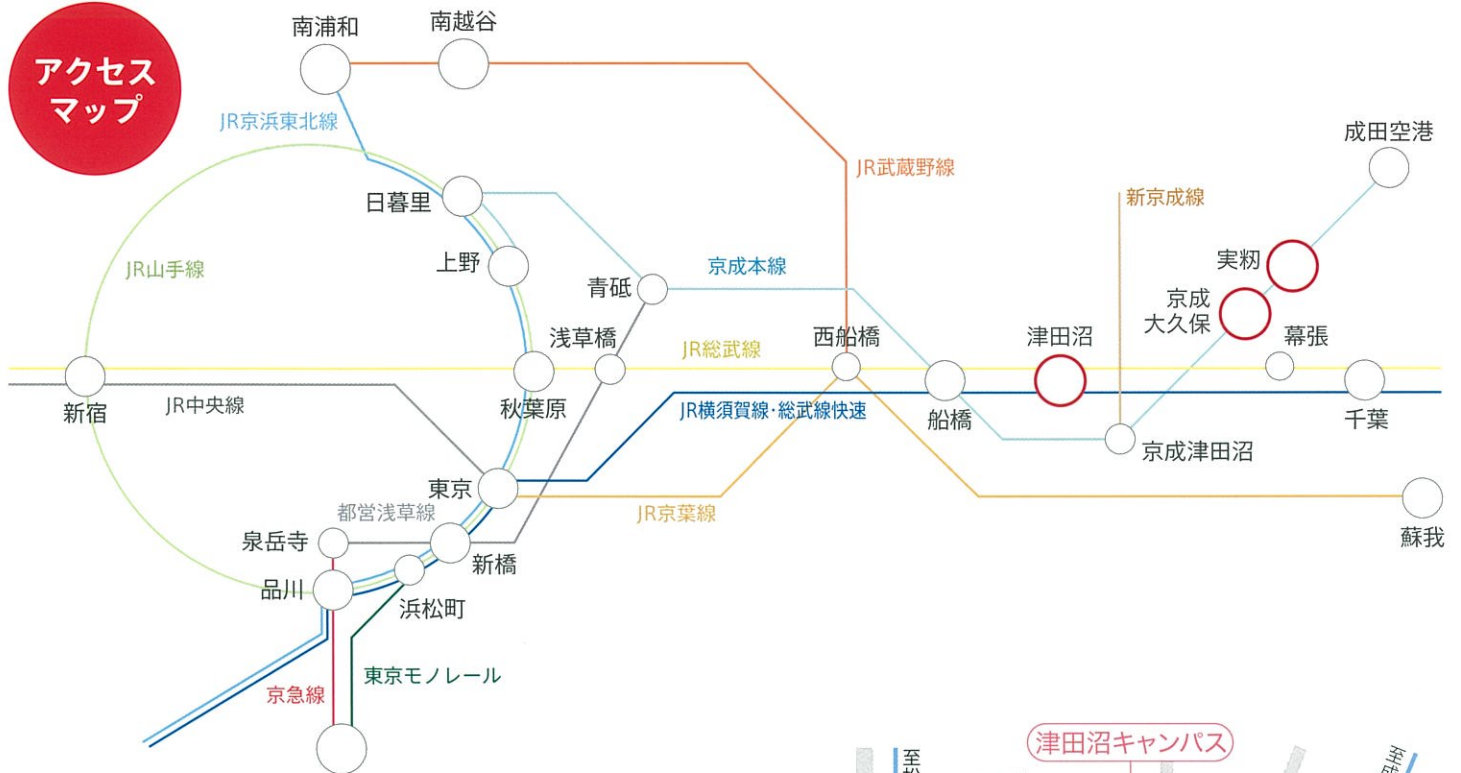
日本大学には加工シミュレーションの分野で実績のある高橋先生がいらっしゃったことから日本大学大学院生産工学研究科を選びました。仕事ではどうしても決められた時間の中で成果を出すことが求められ、とことん研究に向き合うということは難しいものです。博士後期課程の3年間は仕事をしながら研究にも取り組む。そんな二束のわらじをはく生活でしたが、大変というよりは自分のしたい研究ができて楽しいという想いの方が大きかったです。大学院に進学し、会社ではできない理論的な検討や基礎的な実験を行うことにより、加工シミュレーションの結果を実現現象に近づけることができるようになりました。現在は社内の多くの人が加工シミュレーションの技術を使ってものづくりをするようになっており、会社全体にとっても、有益な研究ができたと思います。

人脈形成をはじめ研究者として  
多くの財産を得た

入学時に高橋先生から研究者として人脈を形成していくことも大事だとアドバイスをいただいていた。実際、国際学会や国内学会の発表を通じて加工シミュレーション分野で著名な教授をはじめ、多くの方と知り合う機会を得ることができ、大きな財産となりました。また、会社では海外の方と仕事をする場面も多々ありますが、特に、海外では、仕事上の重要な人物にコンタクトを取って業務を進めていけるなど、博士号があることは大きな違いとなって現れてきます。仕事と学業を両立できるのかという不安も正直ありましたが、大学院でしっかり学びたいという想いに周りは応えてくれます。また、仕事をしながら大学院で学ぶというのは覚悟が必要ですが、私の周りを見渡してもそういった方は探究心のある方が多く、それだけ仕事でも成果を上げていらっしゃる。努力したらした分だけ仕事、人生も大きく変わっていく。大学院に進学することで可能性は大きく広がっていくと思います。



アクセス  
マップ



津田沼キャンパス

電車の場合

京成本線京成大久保駅より  
徒歩10分

バスの場合

JR津田沼駅北口 4番バス停より  
→日大生産工学部下車

■JR津田沼駅まで

東京駅から約28分  
秋葉原駅から約30分  
横浜駅から約60分  
南浦和駅から約60分  
南越谷駅から約50分



# 日本大学大学院 生産工学研究科



〒275-8575 千葉県習志野市泉町 1-2-1  
TEL 047-474-2222 FAX 047-474-2954  
e-mail:cit.kyoumu@nihon-u.ac.jp

<http://www.cit.nihon-u.ac.jp/>